



新たに植えられ山門の黒松(富里市:廣瀬氏寄贈)



Soto-Zen Jyousenji

浄泉寺報

第12号

今年も暑い夏がやってきますが檀信徒の皆様には、ご健勝のことと拝察しお慶び申し上げます。また日頃より浄泉寺護持のためご尽力頂いておりますこと、改めて深く御礼申し上げます。更に、前号でお願い致しました大本山總持寺二祖禪師大遠忌のご寄付につきまして多くの皆様からご協力を賜りましたこと、重ねて御礼申し上げます。

今年も半年が過ぎ、国内でも色々な事件が毎日のように報道されておりますが、特に衝撃だったのは、お隣の国「韓国」での旅客船の事故だったのではないのでしょうか。毎日テレビで救出の状況等が放映されました。助けられたはずの多くの若い命が一瞬に消えてしまいました。利潤追求優先や安全管理意識の欠如が人命の軽視に繋がった恐ろしい事件でした。亡くなられた方には、心からご冥福をお祈りするとともに、ご家族の皆様への心の傷が少しでも軽減しますようお願いいたします。

さて、浄泉寺の行事ですが、花祭りのイベントは今年は参加者の減少により中止いたしました。

また月例行事の御詠歌講や写経会は新たな参加者を迎えて益々充実してきております。更に坐禅会も参加者は増えおります。檀信徒の皆様も是非見学からでも参加してみてはいかがでしょうか。

次に、今年の万燈会ですが、これも例年通り八月十五日の送り盆の夜、境内と墓地に沢山の蠟燭を灯し、檀信徒各家のご先祖様のご供養、あるいは無縁の精霊にご供養する法要と二度目となる琵琶奏者を招いて、まさに万燈会に相応しい「平家物語」を聴かせていただきます。是非ご参加ください。

表紙の写真は、前号で山門の松が枯れたことを書きましたら早速富里市在住のお檀家の廣瀬様ご夫妻からお子様の菩提を弔うためご寄贈いただきましたものです。有り難うございました。

また、秋の永平寺参拝旅行は、諸般の事情から延期致しました。

最後に檀信徒の皆様方のご健勝ご多幸を心よりご祈念申し上げます。ご挨拶と致します。

住職 合掌

当面の行事等

8月 10日(日) 新盆棚経

8月 13日～15日 棚経

8月 15日 万燈供養(演奏会)

午後6時～午後11時頃まで

(イベント午後7時から8時まで)

8月17日 施食会 午前9時から

9月20日～26日 秋彼岸会

10月 観月会イベント未定

(実施の場合は、別途ご案内申し上げます。)

宮田 和雄 様 伊篠	宮田 和雄 様 伊篠	宮田 武 様 船橋市	宮田 敏司 様 伊篠	村嶋 和広 様 飯仲	村嶋 重道 様 十倉	村嶋 庄次 様 飯仲	村嶋 孝志 様 飯仲	村嶋 義次 様 飯仲	本山 忠善 様 東酒々井	安原 博 様 上岩橋	矢代 一雄 様 中央台	山崎 久 様 栄町	山崎 敏雄 様 並木町	山崎 昌生 様 中台	山中 公男 様 江弁須	横田 勉 様 並木町	吉岡 修 様 伊篠	吉岡 忠夫 様 伊篠	吉岡 正孝 様 伊篠	吉岡 真澄 様 伊篠	吉岡 稔 様 東京都大田区	吉岡 良夫 様 伊篠	吉田 浩 様 飯田町	吉田ヤス子 様 七栄	吉松 節子 様 東酒々井	米井 満 様 東酒々井	米久保悦子 様 伊篠	和田 猛 様 東酒々井	渡邊 敬子 様 中台	渡辺 治子 様 宗吾	綿貫 公良 様 中沢
------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	--------------	------------	-------------	-----------	-------------	------------	-------------	------------	-----------	------------	------------	------------	---------------	------------	------------	------------	--------------	-------------	------------	-------------	------------	------------	------------

※一名、氏名未記載あり

お盆の迎えかた

お盆は、一年に一度、八月に、その家のご先祖をお迎えして十分な供養をする時です。地方により、またその家の習慣により、その迎え方は異なりますが、その一例を紹介します。

八月十三日の夕方、家の門口でオガラ（皮をはいだ麻の茎）を焚いて精霊（祖霊）を迎える風習や、お墓参りをし、墓前で火を焚いて先祖の霊を迎える習慣があります。これらを「迎え火」といいます。

十四日、精霊はその家に留まるとされ、仏壇や精霊棚、また墓前に灯明や灯籠をともすのは、万灯の一つとして精霊に供養する意味があります。

十五日の夕べ（または翌早朝）ご先祖様はその家を去るといわれておるところから「仏送り」ともいい、「送り火」を焚き、お供えをし、灯籠を流したり、水辺の無縁の霊に施しをする習慣があります。

しかし昨今では、河水を汚すのを避けるため、供物を河に流さず適宜処分するようです。

浄泉寺大施食会と棚経のお知らせ

棚経のお知らせ

◎ 施食会

八月十七日（日）

午前九時から

当寺本堂でお勤めします。施食会は、もとは施餓鬼といっておりましたが、現在曹洞宗では、人権的見地から「施食会」と呼ぶようになっております。近年は新盆を迎える方の参加が大半ですが、この施食会は、縁のある無しを問わず、広く諸精霊に飲食を施す法会です。他のためにする供養は、自分自身に積む善徳となります。施食会での、ご先祖様の卒塔婆供養をお勧めいたします。供養料は、一本三千円です。

◎ 棚経

八月十三日（水）

午前 伊篠・飯田地区
午後 中央台・東酒々井・その他酒々井・佐倉地区

八月十四日（木）

午前 並木町・飯田町
成田ニュータウン地区
午後 富里地区

八月十五日（金）

午前 その他地区

※ 不在の方は、必ずご連絡をお願いいたします。原則として日程の変更は、お受けできません。この日程で不都合の方につきましては、昨年度より八月十三日から十五日までの毎日午後五時より当寺本堂にて、合同でご供養いたします。午後四三十分までに、お越しの上お申し込みください。

・ 供養料 三千円以上
・ 卒塔婆つき供養料 五千円以上

※ 卒塔婆つき供養の場合は、当日申し込みはできません。

◎ 新盆について

今年新盆を迎えるのは、平成二十四年七月より平成二十五年六月までに逝去された方です。（お盆までに四十九日忌を終えられた霊位です。）

◎ 新盆棚経

八月十日（日）

※ 対象となるご家庭には、別途詳しくご案内申し上げます。

御霊おくり 万燈会

今年の万燈会は、琵琶奏者の岩佐鶴文氏をお招きし、平家物語を聴かせていただきます。浄泉寺に岩佐氏をお招きするのは二度目です。今回は、薩摩琵琶と楽琵琶の二つの琵琶をお楽しみいただきます。

境内や墓所に灯る多くの蠟燭の明かりも幻想的で見物です。

日時 平成26年8月15日（日）

午後7時から8時まで

受付 午後6時30分から

場所 浄泉寺 本堂内

イス席 約80席

入場 無料

演目 平家物語より「俊寛」

「啄木」「楊真操」

「敦盛」など

※ 予約は、不要ですが、イス席をご希望の方は、事前にお申込ください。本堂に入りきれない場合は入場制限があります。



琵琶奏者 岩佐鶴文氏



篤志のご披露

浄泉寺報第十号で昨年の夏に山門の松が枯れてしまったことをご報告致しましたところ、早速、亡きお子様の菩提を弔うという事でご奉納の申し出を頂きました。節分を待つて大雪の後、山門に大変立派な黒松が植樹されました。浄泉寺では後日お子様の追善供養をさせていただき感謝の意を表しました。大変有難うございました。

■ 山門黒松一式

奉納者 富里市七栄

廣瀬 久幸様
廣瀬 かほる様



見事な黒松と廣瀬ご夫妻

■ 檀製中央香台

奉納者 成田市飯田町

福智 達 様



福智 達様と中央香台

また、浄泉寺本堂内の仏具の整備については、成田市飯田町の福智 達様からご両親の菩提を弔うためご寄付の申し出があり、檀製中央香台を買わせていただきました。有り難うございました。併せて感謝の意を持ってご両親の追善ご供養をお勤めさせていただきました。このように本堂や境内に品物でご寄付を頂きますと永年に亘つて残ります。お志のある篤志の方は、是非ご相談くださいますようお願い申し上げます。

浄泉寺で特派布教講習会

去る六月二十日(金)午後一時半から、例年行われております第三教区の特派布教講習会が浄泉寺で開催されました。

当日は、教区内の寺院及び檀信徒の皆様約百名が参加され、開講式の後、宮崎県延岡市 普門寺ご住職 吉井泰俊老師から『布施の菩薩行』『支え合って生きる』という演題でお話をお聞かせいただきました。

また、その後人權学習会が併せて実施されました。

普段中々聞けない貴重なご法話に接し、参加者の心も仏様と一つになり、清々しい気持ちで講習会を終えられたようです。



仏教豆知識

お香の功德

お香は、インドでは古代より、臭気を除き、身心を爽やかにする生活必需品として愛用されました。特に来客があれば、お香を焚いて室内を清涼にし、もてなすのが礼儀とされたのです。それが、お釈迦様の時代に、供養の品として取り入れられ、仏教の発展と共に、最高の供養品として尊重されるようになったものです。

お香は、昔から「仏の使い」とか、「信心の使い」とか言われていきます。これは、お香は人間の信心を、よく仏菩薩に通じさせることのできる使者、という意味です。それについて次の話があります。

お釈迦様が現世におられたころ、或る長者の二人の息子が、お釈迦様のために、お堂を建てたことがあります。二人の兄弟は、お釈迦様をお迎えしたいと思い、香を焚いて、お釈迦様のいらっしゃる祇園精舎の方に向かって、来臨(おいでになる)

のを祈願しました。すると香煙は風に吹かれて祇園精舎へとたなびき、お釈迦様の御頭の上を、香煙が天蓋のようにおおほどもになりました。お釈迦様は二人の信仰の篤さを知り、早速、兄弟の建てたお堂にやって来られた、という話です。

この因縁により、香を焚くと、仏菩薩が直ちに降臨される、という信仰が生まれたのです。

またお香は、一度火をつけて燃やせば、燃え尽きるまで消えることはありません。このはたらきを精進といい、六波羅蜜(菩薩の六つの実践徳目)の中の、〈精進〉にたとえられます。

やすらぎは

ご先祖の供養から

一周忌	平成二十五年
三回忌	平成二十四年
七回忌	平成二十年
十三回忌	平成十四年
十七回忌	平成十年
二十三回忌	平成四年
二十五回忌	平成二年
二十七回忌	昭和六十三年
三十三回忌	昭和五十七年